

平成 23 年度名古屋まつり事業報告書

- 【日 時】 平成 23 年 10 月 15 日（土）～10 月 16 日（日）
- 【場 所】 名古屋市中区栄 もちの木広場
- 【来場者数】 778,000 人（会場行事のみ）
- 【内 容】 本年度の名古屋まつりは、昨年出展した名古屋城内が改修工事等の都合でイベントが開催できない事情があり、また名古屋市も財政難から本年度より主管を（広財）名古屋観光コンベンションビューローに移しての開催となりました。イベント会場も「もちの木広場」「愛の広場」「エンゼル広場」「久屋広場」オアシス 21「銀河の広場」の 5 会場となり、夫々テーマ毎にゾーニングした展開で、今回は「もちの木広場」での参加となりました。本来、イベントの参加目的の一つである上下流交流を通じ本丸御殿復元に協力するスタンスから木曽地域の新たな魅力の情報発信に絞り、特産品販売を中心とした展開を図りました。木曽地方事務所のご協力をいただき、開田高原の新そばや御嶽白菜等の高原野菜、漬物の販売に加え、新たな木曽地域の資源として、木曽産のりんごやう・フランス、舞茸やシメジなどの栽培キノコの販売を試みました。（特産品販売：72,765 円）
- 15 日は生憎の雨降りで、予定されていた郷土の 3 英傑パレードが中止となり雨の合間を縫って訪れる来場者も少なく、特産品販売やパンフレットの配布による観光宣伝が思うように展開できませんでした。
- 16 日は朝から好天に恵まれ来場者も多く、特産品販売はイベント終了を待たず全て完売することができました。また観光宣伝も季刊誌「木曽路」秋号を活用し木曽路の案内をする等、持参した 300 部を配布することができ、一定の効果をすることができました。
- 今回の出店場所が、「もちの木広場」の野外ステージの正面で、1 日中ステージイベントが開催されていたためスピーカーから大音量で音楽等が流れており、物産販売や観光パンフレットの配布の呼び掛けが非常に困難な状況でした。今回の出店は昨年までと違い、2 間×1.5 間の 1 ブースが 30 万円の費用が伴うことから出展を検討しましたが、過去の実績から 2 ブースで 10 万円に割引いていただき出展することができた次第で、出展場所を選ぶことまではできませんでした。また、五平餅や木曽牛コロッケなどご当地グルメによる地域の魅力発信を図るため「久屋広場」への出展も検討しましたが、出展料が 1 ブース 15 万円掛かることもあり、今回は見送らざるを得ませんでした。これだけの費用を掛けてどれだけの効果があったか疑問が残り、来年度以降は出展も含めて内容を検討する必要があります。





